

第266回～第291回

☆放送時間☆

| 期間 | 曜日 | 時間帯 |
|---------------------------|----|-------------------|
| 昭和52年4月 4日～ 昭和52年9月26日 | 月 | 21時00分～ 21時54分 |

司会：森光子（第266回～291回）

松山英太郎（第278回～279回）

☆凡例☆

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者 |
| ③曲目（歌唱者） <small>（※）</small> | ④放送概要 |

※出演順が判明している回は、冒頭に太字で（出演順）と記入）

昭和52年

昭和52年4月4日

- ①「はじめまして森光子です」 #266
- ②美空ひばり、森進一、森昌子
- ③「柔」(美空)、「リンゴ追分」(美空)、「悲しい酒」(美空)、「人生一路」(美空)、「女のためいき」(森進一)、「せんせい」(森昌子)、「おふくろさん」(森進一)、「おかあさん」(森昌子)、「母」(美空ひばり)
- ④ 今回から森光子が司会を担当、その一回目を祝って美空ひばりが特別ゲストとして出演する他、森進一、森昌子と、森と同姓の歌手が登場する。
第一部は美空のヒット曲コーナーで「柔」「リンゴ追分」「悲しい酒」「人生一路」などヒット曲の数々を披露。
第二部では森進一が「女のためいき」、森昌子が「せんせい」などを歌い、デビュー当時の思い出話や近況を語る。
第三部は”母の詩・愛の譜”と題して母にちなんだ曲を特集。森進一が「おふくろさん」、森昌子が「おかあさん」、美空が「母」を歌う。

昭和52年4月11日

- ①「演歌のいろは決定版！」 #267
- ②伴淳三郎、春日八郎、二葉百合子、水前寺清子、青江三奈、新沼謙治
- ③「岸壁の母」(二葉)、「あん時やどしや降り」(春日)、「どうどうどっこの唄」(水前寺)、「恍惚のブルース」(青江)、「異国の丘」(森)、「嫁に来ないか」(新沼)、「涙を抱いた渡り鳥」(水前寺)
- ④ 春日八郎、二葉百合子、水前寺清子、青江三奈のベテランに若手の新沼謙治を加え、演歌の数々を披露。特別ゲストは伴淳三郎。
第一部は演歌オンパレード。二葉が「岸壁の母」、春日が「あん時やどしや降り」、水前寺が「どうどうどっこの唄」、青江が「恍惚のブルース」を歌う。
第二部は伴のコーナーで、昨年10月に開いた芸能生活五十周年リサイタルの思い出や役者の世界と歌の世界の共通点を司会の森光子と語り合った後、森に「異国の丘」をリクエスト。また新沼が「嫁に来ないか」を伴にプレゼントする。
第三部は水前寺のコーナーで、殺陣入りの「涙を抱いた渡り鳥」ほかを披露する。

昭和52年4月18日

- ①「競演・おとなの恋はにがい味？／森光子・西田敏行がっぷり四つ」 #268
- ②北島三郎、ちあきなおみ、由紀さおり、小柳ルミ子、美川憲一、西田敏行
- ③「函館の女」(全員)、「ベッドで煙草を吸わないで」(由紀)、「夜と朝のあいだに」(美川)、「ハートブレイクホテル」(西田)、「昭和枯れすすき」(西田・森)、「加賀の女」(森)、「薩摩の女」(森)、「星の砂」(不明)
- ④ 北島三郎、ちあきなおみ、由紀さおり、小柳ルミ子、美川憲一のほか西田敏行がゲスト出演。全員で歌う「函館の女」でオープニング。

第一部は森光子と西田の恋人同士がマンションの一室で一夜を明かすというコント。西田が迫ろうとするたびに水を差すような歌が入り、とうとう夜が明けてしまう。歌は由紀の「ベッドで煙草を吸わないで」、美川の「夜と朝のあいだに」ほか。

第二部は西田のコーナーで、お得意のプレスリーの物まね「ハートブレイクホテル」の後、森と「昭和枯れすすき」をデュエット、歌の合間に無名時代の苦労話などを森と語り合う。また、デビュー曲を披露する。

第三部は北島のコーナー。北島の開店したおでん屋を訪ねた森が「加賀の女」「薩摩の女」の女シリーズを歌う。

他に「星の砂」をはじめ新曲コーナーが秀逸。

昭和52年4月25日

- ①「競演・歌のあわせ味」 #269
- ②島倉千代子、都はるみ、伊東ゆかり、八代亜紀、殿さまキングス
- ③「小指の思い出」(伊東・八代)、「涙の連絡船」(都・八代)、「情熱の花」(伊東・都)、「朧月夜」(森・殿さま)、「からたち日記」(島倉)、「この世の花」(島倉)
- ④ 島倉千代子、都はるみ、伊東ゆかり、八代亜紀、殿さまキングスをゲストに、ヒット曲交換、花の歌特集などを送る。

第一部はおなじみのヒット曲を他の歌手が歌ったらどんな味が出るか本人との共演で味わう。曲は伊東と八代の「小指の思い出」、都と八代の「涙の連絡船」ほか。

第二部は花の歌特集で伊東と都の「情熱の花」、司会の森光子と殿さまキングスの「朧月夜」。

第三部は島倉のコーナーで、「からたち日記」「この世の花」ほかを歌う。また、二十年来の交際のある司会の森光子が友情にあふれた賛辞をささげる。

他に、新曲コーナー。

昭和52年5月2日

- ①「十年選手競演！あの人があを！／小畑実・艶歌人生ど根性」 #270
- ②水前寺清子、森進一、千昌夫、細川たかし、小畑実、渡久地政信
- ③「君といつまでも」(千・水前寺)、「骨まで愛して」(森進一)、「高原の駅よさようなら」(小畑)
- ④ 水前寺清子、森進一、千昌夫、細川たかしに、大ベテラン小畑実を加えた顔ぶれでヒット曲競演や持ち歌交換などを繰り広げる。

第一部は千と水前寺が「君といつまでも」、森が「骨まで愛して」などを披露、歌の合間にデビュー当時の思い出などを語り合う。

第二部は昨年カムバックした小畑が登場、ヒット曲「高原の駅よさようなら」など、ヒット曲と新曲を歌い、カムバックのきっかけとなった作曲家渡久地政信との再会のエピソードを披露する。

第三部は持ち歌交換。

昭和52年

昭和52年5月9日

- ①「港演歌決定版！／バタヤン・ふるさとの詩」 #271
- ②内山田洋とクール・ファイブ、朝丘雪路、田端義夫、杉良太郎、内藤やす子、若山富三郎
- ③「よこはまたそがれ」(クール)、「他人船」(杉)、「かえり船」(田端)、「ダンチョネ節」(不明)、「サマータイム」(若山)、「或る雨の午後」(若山・森)、「慕情」(若山・朝丘)、「島育ち」(田端)、「十九の春」(田端)
- ④ 田端義夫、朝丘雪路、内山田洋とクール・ファイブ、杉良太郎、内藤やす子の他、若山富三郎を特別ゲストに加えてヒット曲の数々を楽しむ。

第一部は哀愁に満ちた波止場ソングを特集。曲はクール・ファイブの「よこはまたそがれ」、杉の「他人船」、田端の「かえり船」など。

第二部は若山のコーナー。「サマータイム」を原語で歌いながら登場した若山は、司会の森光子や朝丘と近況や趣味の話を披露し、森と「或る雨の午後」、朝丘と「慕情」をデュエットする。

第三部は田端のふるさとソング特集。曲は「島育ち」「十九の春」ほか。

昭和52年5月16日

- ①「特集！！勢揃い16人衆」 #272
- ②欧陽菲菲、森山加代子、泉ピン子、にしきのあきら、ザ・キング・トーンズ、千賀かほる、中村晃子、ディック・ミネ
- ③「空に太陽がある限り」(にしきの)、「白い蝶のサンバ」(森山)、「男と女のお話」(泉)、「真夜中のギター」(千賀)、「恋の追跡」(欧陽)、「虹色の湖」(中村)、「夜霧のブルース」(ディック)
- ④ にしきのあきら、森山加代子ら昭和40年代に大ヒットした歌手男女十数人に泉ピン子が加わり、ディック・ミネを特別ゲストに、当時の世相などを語りながらヒット曲の数々を楽しむ。

第一部は、にしきのの「空に太陽がある限り」、森山の「白い蝶のサンバ」に続いて、泉が日吉ミミの「男と女のお話」を歌う。

第二部はディックが司会の森光子のおしゃべり相手に登場、千賀かほるが「真夜中のギター」、欧陽菲菲が「恋の追跡」を歌い、その時々世相や風俗の変遷を語り合う。

第三部は森と泉のコーナー。泉がキャバレー回り時代の苦労話をユーモラスに語る。曲は中村晃子の「虹色の湖」の他、ディックが「夜霧のブルース」を披露。

昭和52年5月23日

- ①「アロハ！！アグネスです」 #273
- ②アグネス・ラム、石原裕次郎、森進一、小柳ルミ子、アロハ・ハワイアンズ
- ③「赤いハンカチ」(石原)、「胸の振子」(石原)、「夜霧よ今夜も有難う」(石原)、「銀座の恋の物語」(石原・小柳)、「別れの磯千鳥」(森光子・森進一・小柳)、「ハワイアン・ウェディングソング」(石原・ラム)、「赤とんぼ」(石原)、「城ヶ島の雨」(小柳)
- ④ 石原裕次郎、森進一、小柳ルミ子に、来日中のアグネス・ラムを特別ゲストに加え、ヒット曲の数々を送る。

第一部は石原のヒット曲コーナー。曲は「赤いハンカチ」「胸の振子」「夜霧よ今夜も有難う」の他、

小柳とのデュエットで「銀座の恋の物語」など。

第二部はハワイアンコーナーで、全員がアロハ、ムームーのハワイアンスタイルで登場。司会の森光子がラムにハワイでの生活をインタビューする。曲は森光子、森進一、小柳の「別れの磯千鳥」、石原とラムの「ハワイアン・ウェディングソング」ほか。石原のハワイアンに合わせラムがフラを踊るのも見もの。

第三部はラムに石原が「赤とんぼ」、小柳が「城ヶ島の雨」など日本の歌をプレゼントする。

昭和52年5月30日

①「素晴しき季節の詩」 # 274

②美空ひばり

③「カチューシャの唄」(美空)、「波浮の港」(美空)、「君恋し」(美空)、「旅笠道中」(美空)、「津軽のふるさと」(美空)、「恋のパープル・レイン」(美空)、「リンゴ追分」(美空)、「悲しい酒」(美空)、「人生一路」(美空)、「芸道一代」(美空)

④ 美空ひばりのワンマンショー。テーマは母の愛、母への愛情で、歌の合間に司会の森光子とさまざまなエピソードを語り合う。

第一部は、大正から昭和初期にかけて、美空の母の年代の人々が愛唱した歌を特集。曲は「カチューシャの唄」「君恋し」「旅笠道中」ほか。

第二部は“隠れたる名曲四点”と題して、膨大なヒット曲の陰に埋もれているが、美空が大好きという「津軽のふるさと」「恋のパープル・レイン」などを披露。

第三部はミリオンヒット曲を歌う。曲は、「リンゴ追分」「悲しい酒」「人生一路」「芸道一代」など。

昭和52年6月6日

①「北島、都、五木・演歌三番勝負！」 # 275

②水原弘、北島三郎、都はるみ、五木ひろし

③「好きになった人」(都)、「ふるさと」(五木)、「仁義」(北島)、「銀座カンカン娘」(都・五木・北島)、「バラが咲いた」(五木・北島)、「思い出まくら」(都)、「四季の歌」(都・五木・北島・森)、「黒い花びら」(水原)、「君こそわが命」(水原)。

④ 北島三郎、都はるみ、五木ひろしに、このほど病床から再起した水原弘をゲストに迎えて送る。

第一部は、それぞれの思い出深い歌、ヒット曲、好きな歌の特集。都が「好きになった人」、五木が「ふるさと」、北島が「仁義」を歌う他、三人で「銀座カンカン娘」他を披露。

第二部はフォーク挑戦コーナーで、五木と北島が「バラが咲いた」、都が「思い出まくら」、司会の森光子を加えた全員で「四季の歌」を歌う。

第三部は水原のコーナー。森が闘病中の心境や今後の計画をインタビュー、水原は「黒い花びら」「君こそわが命」を歌う。

他に新曲コーナー。

昭和52年

昭和52年6月13日

①「女心の名言集」 #276

②ちあきなおみ、八代亜紀、石川さゆり、ダーク・ダックス、春日八郎、フランク永井、朝田のぼる

③「おひまなら来てね」(八代・ちあき・石川)、「初恋のひと」(石川)、「夏は来ぬ」(森)、「琵琶湖周航の歌」(フランク・ダーク)、「チンチン」(ダーク)、「赤いランプの終列車」(春日・朝田)、「山の吊橋」(春日・森)、「別れの一本杉」(春日)

④ 春日八郎、フランク永井、ダーク・ダックス、ちあきなおみ、八代亜紀、石川さゆり、朝田のぼるの出演でヒット曲の数々を綴る。

第一部は恋に命をかけた女心を歌ったヒット曲特集。曲は八代、ちあき、石川の三人で「おひまなら来てね」、石川の「初恋のひと」ほか。歌の合間に司会の森光子が女心を表現した古今の名言、金言を紹介。

第二部は”ああ青春の愛唱歌”。森が「夏は来ぬ」、フランクとダークが「琵琶湖周航の歌」を歌う他、近く海外演奏旅行に出発するダークが新曲「チンチン」を披露。

第三部は春日のコーナーで、朝田と「赤いランプの終列車」、森と「山の吊橋」をデュエットした後、大阪の主婦からのリクエストで「別れの一本杉」を歌う。

他に新曲コーナー。

昭和52年6月20日

①「サブタイトル不明」 #277

②森繁久弥、森昌子、青江三奈、内山田洋とクール・ファイブ、佐良直美、前川清、松山英太郎

③「長崎は今日も雨だった」(クール)、「雨がやんだら」(青江)、「雨に唄えば」(佐良)、「並木の雨」(森光子・前川)、「ゴンドラの唄」(森昌子)、「さすらいの唄」(森昌子)、「浜をかける少年」(森繁)、「浜辺の唄」(森繁)

④ 芸能生活40年を綴った四部作LPを出した俳優森繁久弥が特別ゲスト。森繁ブシを披露する他に、クール・ファイブ、佐良直美、青江三奈、森昌子らがおなじみのヒット曲を競演する。

第一部は梅雨どきにちなんだ雨の歌特集。曲目はクール「長崎は今日も雨だった」、青江「雨がやんだら」、佐良「雨に唄えば」、司会の森光子と前川清のデュエットで「並木の雨」ほか。

第二部は”森昌子大正ロマンを歌う”で、曲目は「ゴンドラの唄」「さすらいの唄」ほか。歌の合間にクールのメンバーがコントで森昌子にからむ。

第三部は森繁のコーナー。曲目は「浜をかける少年」「浜辺の唄」ほか。曲の合間に佐藤春夫の詩「海辺の恋」の朗読が入る。また、松山英太郎が森繁像を語る。

昭和52年6月27日

①「アメリカ公演(前編)」 #278

②藤山一郎、江利チエミ、今陽子、水原弘、五月みどり、由紀さおり、黒沢明とロス・プリモス、内藤やす子

③「東京ラブソディ」(藤山)、「東京ブギウギ」(今)、「テネシー・ワルツ」(江利)、「黒い花びら」(水原)、「おひまなら来てね」(五月)、「手紙」(由紀)、「ヘッドライト」(ロス)

- ④ 今週と来週の二回にわたり、サンフランシスコ・オペラハウスからの録画中継で送る。ゲスト・藤山一郎、江利チエミほか。司会・松山英太郎、森光子。

第一部は”東京の歌特集”。曲目は藤山「東京ラプソディ」、今陽子「東京ブギウギ」ほか。

第二部は”デビュー特集”。曲目は江利「テネシー・ワルツ」、水原弘「黒い花びら」ほか。また、特別ゲストで出演した在米の五月みどりが「おひまなら来てね」ほかを歌う。

第三部は”ビッグヒット特集”。曲目は由紀さおり「手紙」、ロス・プリモス「ヘッドライト」ほか。

『週刊明星』昭和52年7月10日号では、「サンフランシスコのファミリー・タイム」と題し、藤山一郎・いく子夫妻と由紀さおり・ふさ親子が仕事の合間に観光を楽しむ姿がカラー写真で紹介されている。

昭和52年7月4日

- ①「アメリカ公演（後編）」 #279

- ②藤山一郎、江利チエミ、北島三郎、森昌子、由紀さおり、今陽子、五月みどり、内藤やす子、黒沢明とロス・プリモス、水原弘

- ③「希望」（由紀）、「あざみの歌」（今）、「さのさ」（江利）、「明治一代女」（五月）、「なつかしの歌声」（藤山）、「想い出ぼろぼろ」（内藤）、「たそがれの銀座」（ロス）

- ④ 先週に引き続きサンフランシスコ・オペラハウスから録画中継で送る。ゲスト・藤山一郎、江利チエミほか。司会・松山英太郎、森光子。

第一部は”思い出の青春の歌特集”。曲目は由紀さおり「希望」、今陽子「あざみの歌」ほか。

第二部は”日本調特集”。曲目は江利チエミ「さのさ」、五月みどり「明治一代女」ほか。

第三部は藤山一郎のゴールデンヒット四曲で「なつかしの歌声」ほかを歌い、アメリカの印象や健康法などを語る。続いて内藤やす子「想い出ぼろぼろ」、ロス・プリモス「たそがれの銀座」などが披露される。

昭和52年7月11日

- ①「花の昭和9年会・オレたちが選んだ思い出の歌ベスト9！」 #280

- ②浅丘ルリ子、和田アキ子、中条きよし、三波豊和、殿さまキングス、桂五郎、児玉清、長門裕之、牧伸二、月の家円鏡、藤村有弘

- ③「とんがり帽子」（昭和9年会メンバー）、「東京ブギウギ」（不明）、「山小舎の灯」（不明）、「湯の町エレジー」（不明）、「愛の化石」（浅丘）

- ④ 浅丘ルリ子、和田アキ子、中条きよし、三波豊和、殿さまキングス、桂五郎のほか、3月に旗揚げした昭和9年生まれの芸能人グループ「昭和9年会」から児玉清、長門裕之、牧伸二、月の家円鏡ほか参加、思い出の歌、心の歌を歌いまくる。

第一部は「昭和9年会」のメンバーが登場、会のテーマソング「とんがり帽子」を全員で歌った後、メンバーが選んだベスト9をゲスト歌手と一緒に歌う。曲は「東京ブギウギ」「山小舎の灯」「湯の町エレジー」ほか。

第二部は浅丘のコーナーで「愛の化石」ほかを披露。

他に新曲コーナーなど。

昭和52年

昭和52年7月18日

①「サブタイトル不明」 #281

②田宮二郎、北島三郎、ピンクレディー、内山田洋とクール・ファイブ、水前寺清子、青江三奈

③「星はなんでも知っている」(水前寺)、「星屑の街」(北島)、「小雨の丘」(田宮)、「麦と兵隊」(田宮)、「カルメン'77」(田宮・ピンク)、「赤坂の夜は更けて」(田宮・青江)、「函館の女」(田宮・北島)

④ 北島三郎、水前寺清子、青江三奈、内山田洋とクール・ファイブ、ピンクレディーの他、田宮二郎が特別ゲストで出演する。

第一部は星の歌を特集。曲は水前寺「星はなんでも知っている」、北島「星屑の街」ほか。歌の合間に司会の森光子が星占いをする。

第二部は田宮のコーナー。同じ京都出身の森と、京都の思い出を語りながら「小雨の丘」「麦と兵隊」など少年時代に印象の深かった曲を歌う他、ピンクレディーと「カルメン'77」、青江と「赤坂の夜は更けて」、北島と「函館の女」を披露。

他に新曲コーナー。

昭和52年7月25日

①「サブタイトル不明」 #282

②小林旭、宍戸錠、都はるみ、八代亜紀、西川峰子、藤圭子

③「花笠道中」(都)、「函館の女」(藤)、「ダイナマイトが百五十屯」(小林)、「ギターを持った渡り鳥」(小林)、「旅笠道中」(小林・宍戸)

④ 都はるみ、藤圭子、八代亜紀、西川峰子の”演歌四人女”と”帰って来た渡り鳥”の小林旭が出演。更に日活アクションで活躍した宍戸錠がゲスト。

第一部は演歌四人女が、一番思い出に残る演歌を一曲ずつ歌う。曲は都が「花笠道中」、藤が「函館の女」ほか。歌の合間に曲にまつわる思い出や演歌を志した動機などを語る。

第二部は小林のコーナー。初期の「ダイナマイトが百五十屯」やヒット曲「ギターを持った渡り鳥」などを歌い、司会の森光子の質問に答え、文芸映画の新人スターからアクションスターに転向した理由、歌い始めたきっかけなどを語る。続いて宍戸が登場し、小林と日活時代の思い出を語り合った後「旅笠道中」をデュエットする。

昭和52年8月1日

①「必見！！爆笑歌謡ドラマ」 #283

②森進一、五木ひろし、ちあきなおみ、森昌子、小柳ルミ子、新沼謙治、渡真介

③「純情派」(渡)、「村祭りの前に」(新沼)、「女のためいき」(森進一)、「長崎から船にのって」(五木)、「千曲川」(森進一・五木)

④ 森進一、五木ひろし、ちあきなみ、小柳ルミ子、森昌子、新沼謙治、新人渡真介が出演、演歌の競演や歌謡ドラマを繰り広げる。

第一部は、女性三人の話題曲競演。

第二部“お楽しみ歌謡ドラマ”は、スタジオに作った夜汽車を舞台に、五木の老ヌード劇場主、ちあきの下積み歌手などがメイ優ぶりを披露する。

第三部は新人コーナーで、渡がデビュー曲「純情派」、新沼が「村祭りの前に」を歌う。

第四部は森進一が「女のためいき」、五木が「長崎から船にのって」などを歌った後、二人で「千曲川」をデュエット。

昭和52年8月8日

①「わが青春の高峰三枝子」 #284

②西田敏行、あおい輝彦、野口五郎、石川さゆり、真木ひでと、高峰三枝子

③「センチメンタル・カーニバル」(あおい)、「能登半島」(石川)、「季節風」(野口)、「通行人」(西田)、「懐しのブルース」(高峰)、「別れのタンゴ」(高峰)、「湖畔の宿」(高峰)

④ 特別ゲストに高峰三枝子を迎えてヒット曲の数々を聞く他、西田敏行、あおい輝彦、野口五郎、石川さゆり、真木ひでととの出演で送る。

第一部は出演者がそれぞれ近況を語った後、あおいが「センチメンタル・カーニバル」、石川が「能登半島」、野口が「季節風」を歌う。

第二部は西田の「歌でつづる自叙伝」といった趣向で、通行人ばかりを演じた下積み時代を歌った「通行人」ほかを歌う。

第三部は、森のナレーションでつづる高峰のワンマンショー。曲は、「懐しのブルース」「別れのタンゴ」「湖畔の宿」ほか。

昭和52年8月15日

①「演歌で残暑御見舞申し候」 #285

②橋幸夫、舟木一夫、左とん平、梓みちよ、尾崎紀世彦、北原ミレイ

③「また逢う日まで」(尾崎)、「ざんげの値打ちもない」(北原)、「とん平のヘイ・ユウ・ブルース」(左)、「秋田から来た先生」(左)、「雨の哀歌」(森)、「高校三年生」(舟木)、「潮来笠」(橋)

④ 橋幸夫、舟木一夫、梓みちよ、尾崎紀世彦らに左とん平を加えたにぎやかな顔ぶれが、ヒット曲を歌う。

第一部はヒット曲特集で、曲は尾崎「また逢う日まで」、北原ミレイ「ざんげの値打ちもない」ほか。

第二部は、左が「とん平のヘイ・ユウ・ブルース」で出演者一同とユーモラスに絡んだ後「秋田から来た先生」を歌う。

第三部は、司会の森光子が最近吹き込んだ初のLPの中から「雨の哀歌」ほかを歌う。

第四部は橋と舟木のコーナーで、それぞれ現在の心境などを語る。曲は舟木「高校三年生」、橋「潮来笠」ほか。

昭和52年8月22日

①「必見！！大爆笑ドラマ”屁たれ嫁っこ”」 #286

②都はるみ、和田アキ子、黒沢年男、森昌子、あいざき進也、高田みづえ

③「二杯目のお酒」(和田)、「やめなよ」(黒沢)、「涙の連絡船」(都・森昌子)、「なみだの棧橋」(森昌子)「北の宿から」(都)

昭和52年

- ④ 都はるみ、和田アキ子、あいざき進也、森昌子、高田みづえの他、黒沢年男が歌手として出演、ヒット曲の競演や歌謡ドラマを繰り広げる。

第一部はヒット曲競演で、曲は和田「二杯目のお酒」、黒沢「やめなよ」ほか。

第二部は「お楽しみ歌謡ドラマ」。出し物は日本の民話「屁たれ嫁っこ」。若い嫁に和田、その母に森光子、婿にあいざきが扮し、ものすごい屁をするのが原因で追い出されそうになった花嫁が、けがの功名でピンチを逃れるのをユーモラスに描く。

第三部は民謡特集。

第四部は都と森昌子のジョイント・コーナー。「涙の連絡船」をデュエットした後、森昌子が「なみだの棧橋」、都が「北の宿から」などを披露。

昭和52年8月29日

- ①「秀樹只今参上！！／九ちゃん・かよ子、パラキンと大合唱！！」 #287

- ②ペギー葉山、朝丘雪路、西城秀樹、坂本九、森山加代子、ダニー飯田とパラダイス・キング

- ③「上を向いて歩こう」(坂本)、「南国土佐を後にして」(ペギー)、「ミスター・ベースマン」(パラキン)、「ヘイポーラ」(森山・西城)

- ④ 西城秀樹、坂本九、朝丘雪路、ペギー葉山、森山加代子、ダニー飯田とパラダイス・キングをゲストに迎えて送る。

第一部はヒット曲競演で、曲は坂本の「上を向いて歩こう」、ペギーが「南国土佐を後にして」ほか。

第二部はパラダイス・キングが登場して「ミスター・ベースマン」を歌い、坂本九、森山加代子がパラダイス・キングとともに”パラキン”時代のヒット曲を歌いまくる。また、森山と西城が掛け合いで「ヘイポーラ」を披露。

第三部はペギーと朝丘のコーナー。

昭和52年9月5日

- ①「森光子が綴る思い出のうた」 #288

- ②森進一、西城秀樹、新沼謙治、いしだあゆみ、石川さゆり、大津美子、ちあきなおみ、石原圭子

- ③ **(出演順)**「あたし」(石原)、「若き日の詩」(大津)、「影を慕いて」(森進一)、「悲しき子守唄」(森光子)、「ここに幸あり」(大津)、「有楽町で逢いましょう」(ちあき)、「ブルー・ライト・ヨコハマ」(いしだ)、「激しい恋」(西城)、「傷だらけのローラ」(西城)、「ボタンを外せ」(西城)、「ダンシング」(いしだ)、「夜へ急ぐ人」(ちあき)、「夜行列車」(森進一)、「涙をひろって」(全員)

- ④ 森進一、いしだあゆみ、ちあきなおみ、西城秀樹、新沼謙治、石川さゆり、石原圭子にベテラン大津美子を加えた顔ぶれで送る。

第一部は新人石原のデビュー曲「あたし」に続き、大津が久々の新曲「若き日の詩」を歌う。

第二部は”森光子が綴る思い出のうた”。司会の森光子の語りで、その時代のヒット曲を紹介。曲は森進一「影を慕いて」、森光子「悲しき子守唄」、大津「ここに幸あり」、ちあき「有楽町で逢いましょう」、いしだ「ブルー・ライト・ヨコハマ」。

第三部は“西城秀樹激唱！”で西城のワンマンショー。曲は「激しい恋」「傷だらけのローラ」「ボ

タンを外せ」。

第四部は新曲コーナーで、いしだ「ダンシング」、ちあき「夜へ急ぐ人」、森進一「夜行列車」。エンディングは全員で「涙をひろって」。

昭和52年9月12日

- ①「森光子クレーンカメラに挑戦！！」 #289
- ②都はるみ、鰐淵晴子、細川たかし、南沙織、内山田洋とクール・ファイブ、小畑実、佐藤蛾次郎、荻島真一、荒木由美子
- ③「潮来花嫁さん」(都)、「らしゃめん馬車」(鰐淵)、「ほろ酔い」(森)
- ④ 都はるみ、内山田洋とクール・ファイブ、小畑実、細川たかしの他、佐藤蛾次郎、鰐淵晴子、荻島真一の異色メンバーで送る。

第一部は“都はるみの嫁入り演歌”と題して、結婚シーズンに先駆け森光子や都はるみらが”嫁入り演歌”を歌う。クール・ファイブとの寸劇があり、都は「潮来花嫁さん」を歌う。「人気番組の舞台裏」と題する『週刊サンケイ』昭和52年9月8日号の記事によると、「ポスター大の大きなカンニングペーパーに歌詞がマジックで書かれてあり、これをはるみが“見ながら”歌うという寸法」だったようである。

第二部は先ごろ、夫君タッド若松演出の東映映画「らしゃめん」で久方ぶりに主役を演じた鰐淵が特別ゲストとして出演する。鰐淵は、赤いズボンに赤地に花模様のショールを腰に巻いた例の“らしゃめんルック”で登場。映画の撮影中の苦労話を共演の荻島と語ったり夫のことなどを話した後、映画の主題曲として流れる「らしゃめん馬車」をナレーション入りで歌う。司会の森光子も、先ごろLP「昭和女の放浪歌」を出したことから“うたうスター”として話が弾み、森の方もLPの中の一曲である「ほろ酔い」を披露する。

第三部はクール・ファイブ・ショー。

他に新曲コーナー。

なお、森がクレーンカメラに載って、細川の歌の部分を“収録”するという試みが行われた。『週刊平凡』昭和52年9月1日号には、「高い所が大好きな彼女、恐い様子をちっともみせず、ごきげん。」との添え書きで森がクレーンカメラを操作する写真が載っているが、前掲『週刊サンケイ』昭和52年9月8日号の記事によると、初めは意欲満々だったものの本番ではオロオロしていたとのことである。

昭和52年9月19日

- ①「嵐寛天狗と三人娘！？昌子 淳子 百恵」 #290
- ②森昌子、桜田淳子、山口百恵、五木ひろし、竹脇無我、高瀬殺陣会、嵐寛寿郎
- ③「初恋時代」(森昌子・桜田・山口)、「もう戻れない」(桜田)、「イミテーション・ゴールド」(山口)、「なみだの棧橋」(森昌子)、「錆びたナイフ」(五木)、「灯りが欲しい」(五木)
- ④ 森昌子、桜田淳子、山口百恵の三人娘の他、五木ひろし、竹脇無我、嵐寛寿郎という異色の顔ぶれで送る。

第一部は“再会！三人娘”で、3月の東京・日本武道館の公演以来、半年ぶりに共演する森昌子、

昭和52年

桜田、山口が、「初恋時代」を一緒に歌う他、桜田が「もう戻れない」、山口が「イミテーション・ゴールド」、森昌子が「なみだの栈橋」を披露。

第二部は嵐のコーナー。森光子と親類筋にあたる嵐が、少女時代からデビュー当時の”光ちゃん”のエピソードを語る。

第三部は竹脇の語りで五木が「錆びたナイフ」「灯りが欲しい」などを歌い上げる。

昭和52年9月26日

①「森光子さん涙の最終回！！」 #291

②布施明、水前寺清子、ぴんから兄弟、桂五郎、清水由貴子

③「ひとり芝居」(布施)、「シクラメンのかほり」(布施)、「湯の町ブルース」(ぴんから)、「明日草」(清水)、「心のきず」(桂)、「涙を抱いた渡り鳥」(水前寺)、「花染め音次郎」(水前寺)、「また逢う日まで」(全員)

④ 布施明、水前寺清子、ぴんから兄弟に新人桂五郎、清水由貴子らの出演でヒット曲の数々を披露。第一部は“布施明、初秋に唄う！”で、曲は布施が自ら作詞・作曲した「ひとり芝居」のほか「シクラメンのかほり」など。

第二部は、ぴんから兄弟と新人二人のコーナー。ぴんから兄弟が「湯の町ブルース」、清水が「明日草」、桂が「心のきず」を歌う。

第三部は水前寺のコーナーで、曲は「涙を抱いた渡り鳥」「花染め音次郎」ほか。

また、全員で「また逢う日まで」を合唱する。